

**共済金支払データに基づく
農作業事故の発生状況の分析（概要版）**

全国共済農業協同組合連合会

はじめに

分析データ

JA 共済の提供するさまざまな共済のうち、「事故状況説明」が確認可能な「傷害共済」と「自動車共済」を対象として、農作業事故を抽出しました。

「傷害共済」は、災害による死亡・負傷に応じて定額の共済金が支払われる共済です。日常生活の中における災害で被害を受けた場合に保障する普通傷害共済のほか、農作業中、交通事故、特定の農機具の使用管理中に限定して保障するタイプもあります。なお、熱中症にかかる特約等はないため、本分析において熱中症による事故は含まれておりません。本分析の事故発生年月日は2021年1月1日から2024年12月31日まで、支払処理日は2021年3月29日から2025年4月4日まで、データ件数は22,120件、重複事故等を除く分析対象数は21,720件でした。

「自動車共済」は、「相手方への賠償」「被共済者・搭乗中の方の保障」「被共済自動車の保障」の3つを中心に保障する共済です。本分析では、物損の被害のみを分析対象としました。本分析の事故発生年月日は2021年4月1日から2025年3月31日まで、契約車種区分はJA共済における農業用車両の区分とし、データ件数は19,598件（被害物の数）、支払処理未完了等を除く分析対象数は18,801件です。

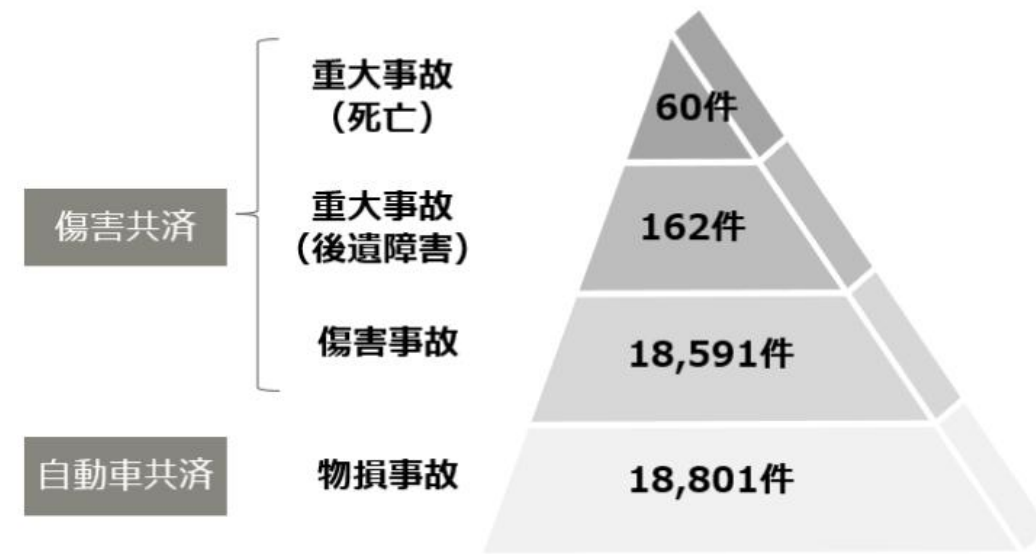
死亡などの重大事故のみではなく、重大事故以外を含めた事故情報を分析対象とし、2018年分析、2022年分析に続き、本分析は3回目の分析となります。

毎年、農林水産省から公表される死亡事故の調査結果は農作業事故の全体からすれば氷山の一角といえます。農水省調査による令和6年の死亡事故が287件であり、今回分析対象の死亡事故、傷害事故件数から全体の農作業事故件数を試算すると、年間約9万件発生していると推測されます。

本分析では、死亡にいたらなかった事故を含めて、より広範囲の農作業事故の実態を明らかにしました。「共済金支払いデータに基づく農作業事故の発生状況の分析（詳細版）」と併せて、ご高覧ください。

JA 共済連の 事故データ

図1 共済種類別事故種類別の事故データ数



(注1) 傷害共済と自動車共済は、異なる加入者、異なる取得期間のデータであり、上記のデータ件数による発生比率の比較検証はできません。

(注2) 傷害共済は「農作業中傷害共済」に絞ってデータを集計しています。

(注3) 「ハインリッヒの法則」を準用し、図を作成しています。

分析 1 (概要)

死亡以外の災害を含めた発生状況

今回の分析における死亡以外の災害を含めた発生状況と、事故の種類別の主な特徴は下表の通りです。

過去の分析と比べると、①死亡の事故発生区分別の割合は2018年分析結果と同傾向、②農機事故の割合が高い、③農機事故の発生頻度と重傷度は「乗用トラクタ」では発生頻度並びに重傷度が低減、④「チェーンソー」では発生頻度は増加した一方、重傷度は低減しています。

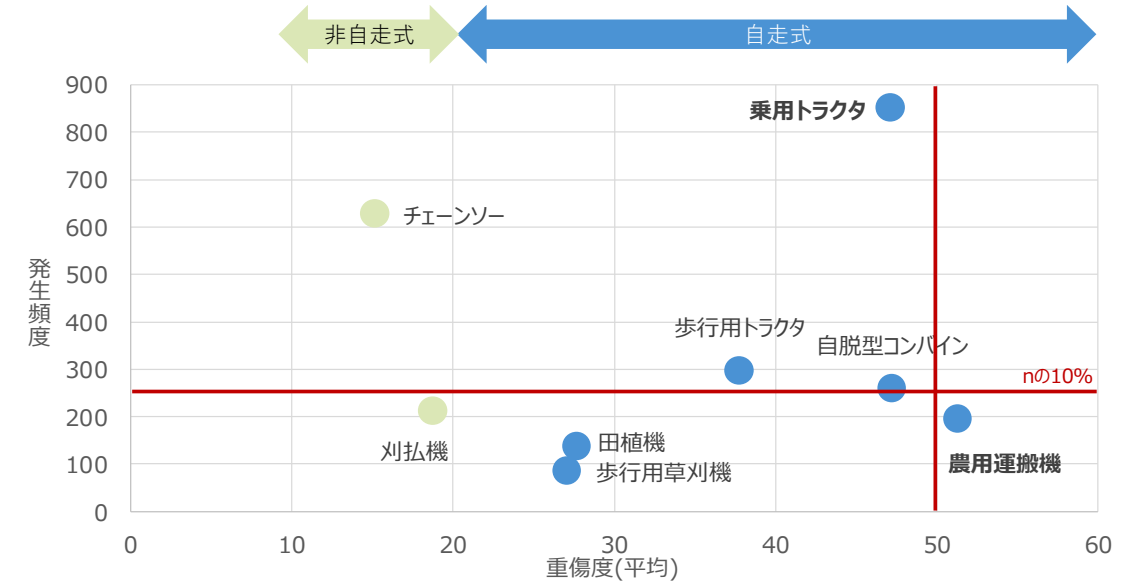
| 着眼点 | まとめ |
|-------------|--|
| a: 傷害の程度別 | 死亡: 後遺障害: 傷害 = 1 : 3 : 310 死亡事故は極一部 |
| b: 事故全体 | 農機: 施設: その他 = 5 : 3 : 9 「その他事故」が多い |
| c: 重大事故 | 農機: 施設: その他 = 7 : 2 : 5 「農機事故」が多い |
| d: 農機事故 | 「乗用トラクタ」 は「発生頻度」の、「 農用運搬機 」は「重傷度」の観点から危険性が高い(図2) |
| e: 施設・その他事故 | 施設内外を問わず、「 墜落 」の場合に重大事故につながり易く、高所作業や急な斜面には注意が必要(図3、4) |

(注)「重傷度」はJ A 共済連が独自に算出した指標です。

農機事故
(全体)

d

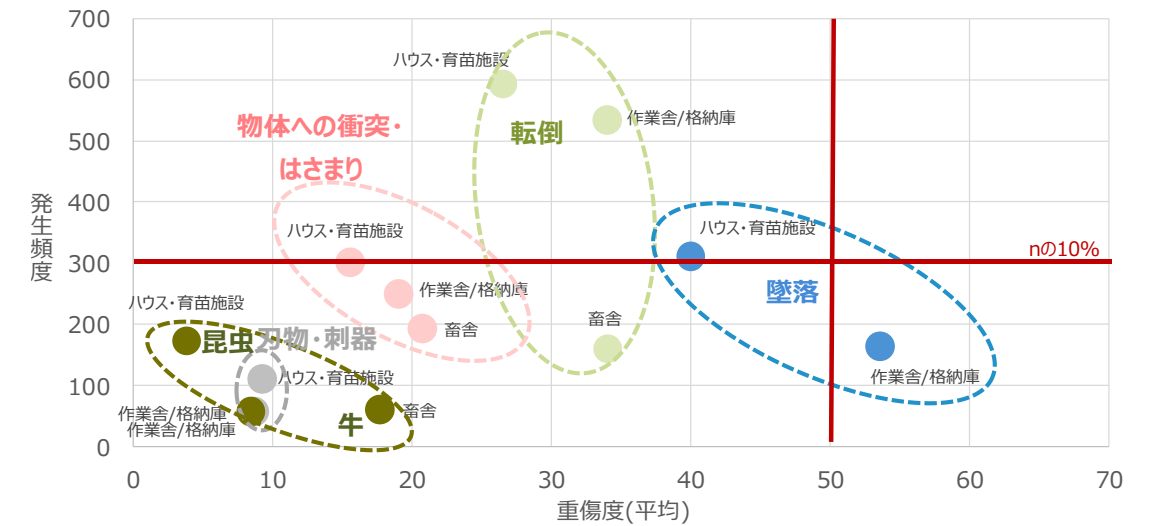
図2 発生頻度と重傷度(平均)【主要農機別】



施設事故
(全体)

e

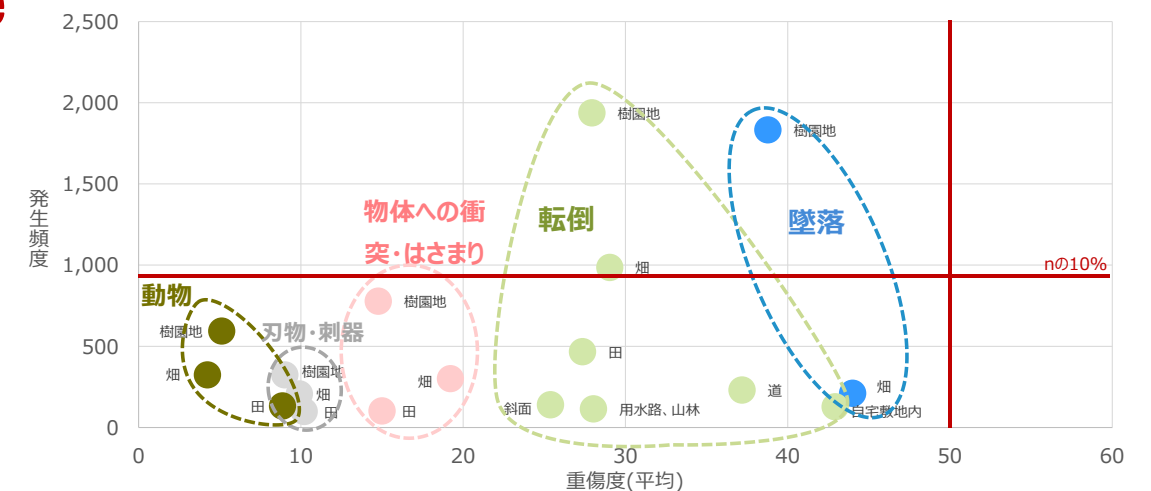
図3 発生頻度と重傷度(平均)【事故原因・発生場所別】



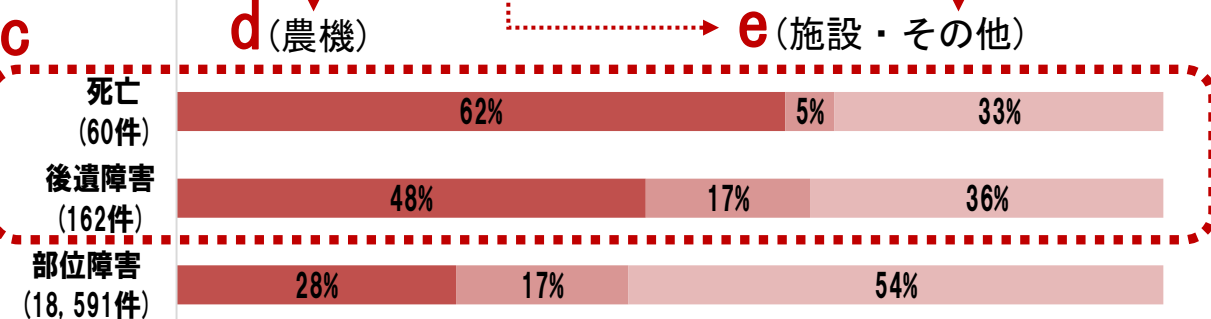
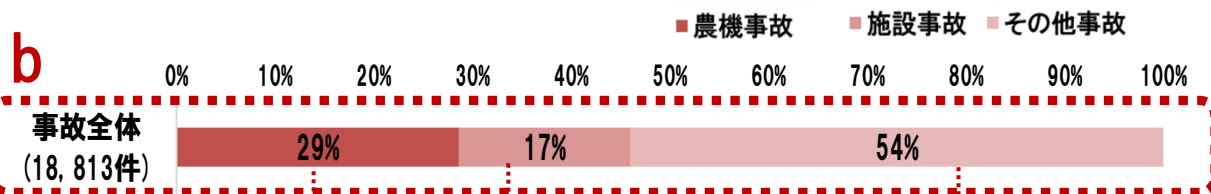
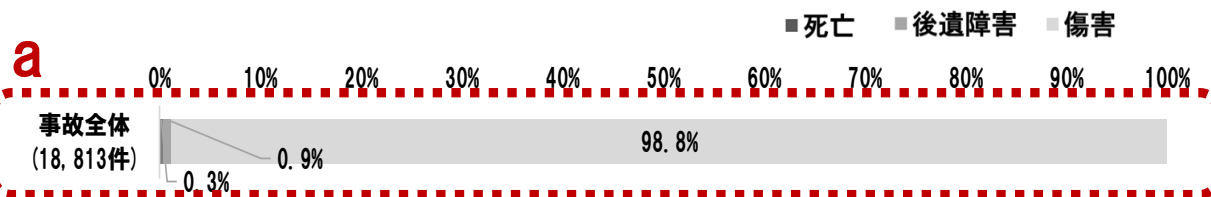
その他事故
(全体)

e

図4 発生頻度と重傷度(平均)【事故原因・発生場所別】



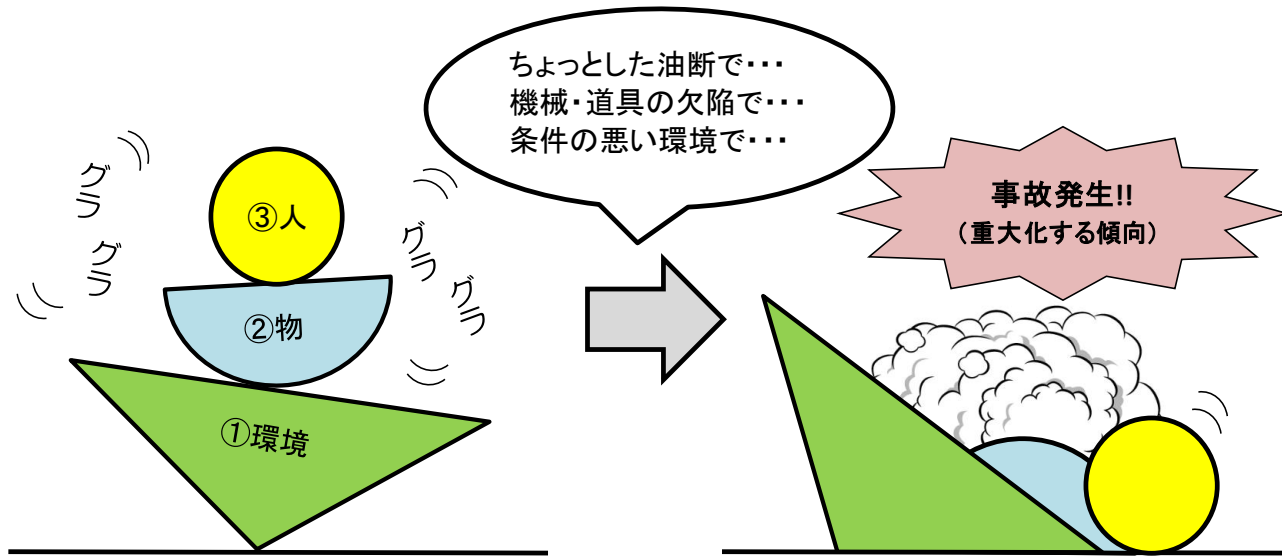
(注)「樹園地」の頻度は、果樹農家の共済加入率が高いことが影響しています。



分析 2 (概要) **農作業の特性と事故の関係**

農作業事故の発生原因、重大化傾向等について、一般的な農作業特性と事故の関係を検証すると、主な特徴は下表の通りです。

過去の分析と比べると、①年代別重症度の割合は同様の傾向である一方、②農機事故の重傷度は低減傾向にあります。



| 農業の主な特性 | | データの検証 | まとめ |
|---------|----------------|--|------------------|
| ①環境 | 斜面、高所作業が多い | 「転倒 (同一平面)」、「衝突」が事故全体の半数を占める (図5) ・施設事故は約2割を占める (図6) ・発生時期は6~9月で4割を占める (図7) | 起こしやすい 事故を |
| | 狭く暗い施設、炎天下が多い | | |
| ②物 | 様々な機械、用具、家畜を扱う | 機械、用具、生物だけで約6割を占める (図8) 機械、用具の事故の重傷度は、他の事故よりも高い (図9) | 重大事故に 繋がりがやすい |
| ③人 | 高齢者が多い | 高齢なほど重傷度が高い (図10) 事故後すぐに発見されないケースが散見される | |
| | | ワンオペレーションが多い | |

環境

図5 発生原因

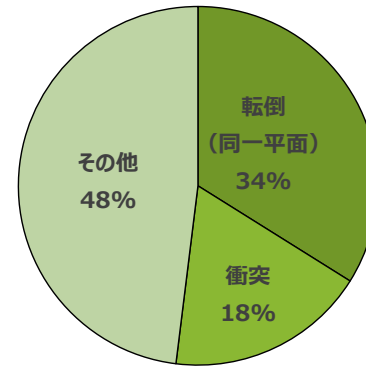


図6 発生場所

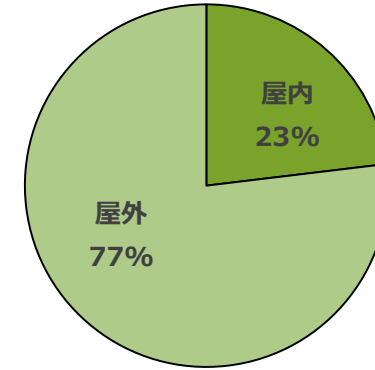
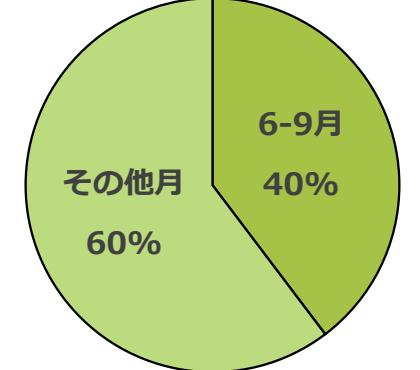


図7 発生時期



物

図8 発生件数 (割合)

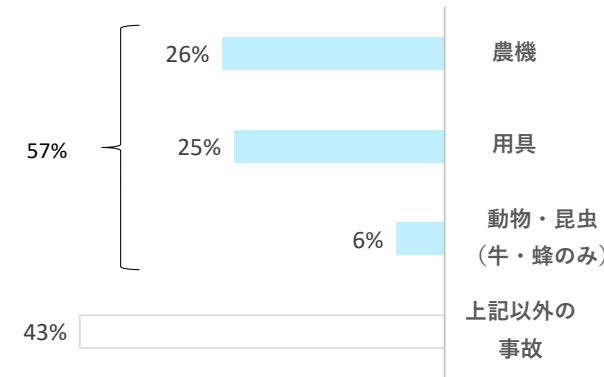
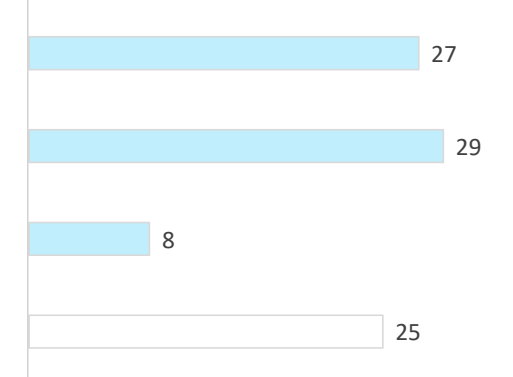
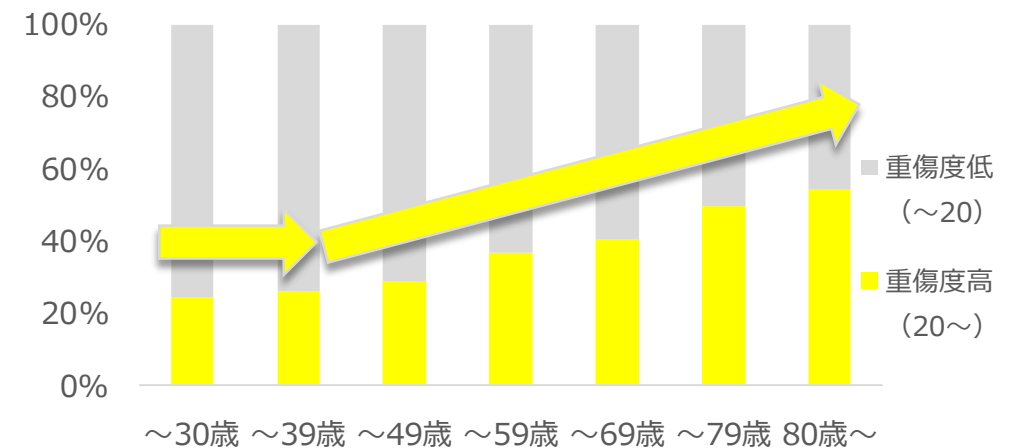


図9 重傷度 (平均)



人

図10 年代別の重傷度の割合



分析3 (概要)

主な農機・用具・生物の事故特性

主な農機・用具・生物（合計14種）の事故特性は右表の通りであり、特に①乗用トラクタの前進中、②歩行用トラクタの後進中、③脚立・はしご使用時の墜落で、事故件数が多く、重傷度が高い傾向です。

過去の分析と比べると、同様の傾向にあります。



事故特性のまとめ

- : 「乗用型」使用時の「公道・圃場での転落・横転・衝突」
- : 「乗用型」使用時の「乗降中の人への転倒」
- : 「歩行型」使用時の「下敷き・巻きこまれ・構造物と機械に挟まれ」
- : 「刈払機・はしご・脚立」使用時の「(不安定な場所からの) 転落・墜落」
- : 「刃のある機具」使用時の「巻きこまれ・刃との接触」

| | | 発生頻度 多 重傷度 高 | 発生頻度 多 重傷度 低 | 発生頻度 少 重傷度 高 |
|-----|----------|---------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 乗用型 | 乗用トラクタ | 前進(圃場) - 転落・横転 | 作業機連結 - その他の接触 乗降中 - 転倒のみ | 周辺作業 - 巻きこまれ 直進(公道) - 転落・横転 |
| | 田植え機 | - | 点検・手入れ - その他の接触 乗降中 - 転倒(のみ) | 前進(圃場) - 構造物に接触 直進(公道) - 転落・横転 |
| | 自脱型コンバイン | - | 周辺作業中 - その他接触 周辺作業中 - 巻きこまれ | 周辺作業中 - 刃部との接触 直進(公道) - 転落・横転 |
| 兼用型 | 歩行用トラクタ | 後進(圃場) - 構造物と機械に挟まれ 後進(圃場) - 巻きこまれ | 前進(圃場) - その他の接触 前進・後進(圃場) - 転倒のみ | 前進(圃場) - 転落・横転 - |
| | 農用運搬機 | 後進(圃場) - 構造物と機械に挟まれ - | - | 後進(圃場) - 下敷き 直進以外(公道) - 下敷き |
| その他 | 歩行用草刈機 | - | 前進(圃場) - 飛散物跳ね上げ - | 積み下ろし - 下敷き 前進(圃場) - 転落・横転 |
| | 刈払機 | - | 前進(圃場) - 巻きこまれ 前進(圃場) - 転倒のみ | - |
| | チェーンソー | - | 立木切断 - 巻きこまれ 剪定 - 巻きこまれ | - |
| 用具 | 脚立 | 樹園地 - 墜落 | - | 作業舎/格納庫 - 墜落 |
| | はしご | 樹園地 - 墜落 樹園地 - 踏み外し(昇降不明) | - | 作業舎/格納庫 - 墜落 ハウス/育苗施設 - 墜落 |
| | 鎌 | - | 畑 - 刃部との接触 田 - 刃部との接触 | - |
| | はさみ | - | 樹園地 - 刃部との接触 | - |
| 生き物 | 牛 | - | 畜舎 - その他のぶつかり 畜舎 - 踏まれ | - |
| | 蜂 | - | 樹園地 - 刺され(業務外) 畑 - 刺され(業務外) | - |

(注) 「発生状況(～するとき)」と「結果(～になった)」の組み合わせからなる「事故の型」について、発生頻度が事故データの10%超(「事故の型」が多様な乗用・歩行用トラクタでは5%超)の場合に「発生頻度 多」と判定し、重傷度(平均)が50超(重傷度が比較的低い用具・生物では30超)の場合に「重傷度 高」と判定しています。

分析4 (概要)

物損事故の発生状況

傷害事故の予備軍ともいえる物損事故の発生状況の主な特徴は下表の通りです。

過去の分析と比べると、①事故結果及び衝突対象は概ね同様の傾向である一方、②件数及び損害額は増加傾向にあります。

| 着眼点 | まとめ |
|------------------|---|
| a : 自車両 | <ul style="list-style-type: none"> 件数及び損害額は、「農業車両 (単独)」の形態で最も高い 特に「転倒・転落」については「発生頻度」及び「損害額」のいずれの観点からも危険性が大きい (図 11) |
| b : 相手方車両 | <ul style="list-style-type: none"> 損害額は、それほど高くはないが、実際にはこのほか相手方の人身傷害にかかる損害賠償を過失割合に応じて請求されることが一般的 |
| c : 静止物 | <ul style="list-style-type: none"> 損害額は、低い 特に「壁」及び「給水・排水設備」に衝突することが多い (図 12) |

農業車両 × 車

| | | | |
|----------|-------|----------|--------|
| a | | b | |
| 件数 | 522件 | 件数 | 2,210件 |
| 損害額 (平均) | 約71万円 | 損害額 (平均) | 約36万円 |

農業車両 × 静止物

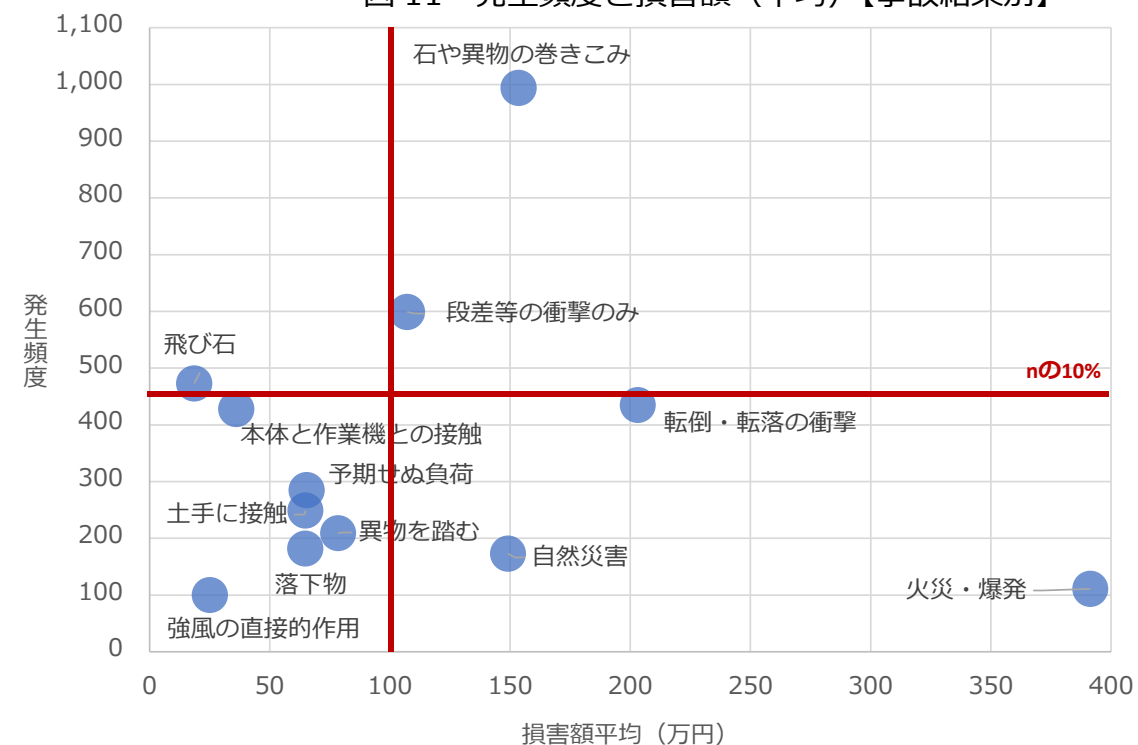
| | | | |
|----------|--------|----------|--------|
| c | | C | |
| 件数 | 1,818件 | 件数 | 4,897件 |
| 損害額 (平均) | 約72万円 | 損害額 (平均) | 約21万円 |

農業車両 (単独)

| | |
|----------|--------|
| 件数 | 4,732件 |
| 損害額 (平均) | 約106万円 |

農業車両 (単独) の詳細

図 11 発生頻度と損害額 (平均) 【事故結果別】



静止物の詳細

図 12 発生頻度と損害額 (平均) 【衝突対象別】

